

城下町映画祭

日映協フィルムセレクション

平成11年12月4日(土)・5日(日)

上田市文化会館



4
日(土)

青春とはなんだ (上田ロケ作品)
オープニングセレモニー
大林宣彦監督講演
「映画づくりと街づくり」
青春デンデケデケデケ
カルメン故郷に帰る
カンゾー先生

5
日(日)

のど自慢
20世紀ノスタルジア
大阪物語
ポストマン・ブルース
座頭市と用心棒

大林 宣彦

映画監督。

〈Nobuhiko Obayashi〉 1938年1月9日、広島県尾道市生まれ。

幼少時、生家の納戸で「家庭用活動大写真機」を発見したのが映画との出会い。映写装置を創意工夫したり、8ミリ映画を作る少年期を過ごす。63年16ミリ処女作『喰べた人』がベルギー国際実験映画祭で審査員特別賞を受賞。66年『EMOTION=伝説の午後・いつか見たドラキュラ』を発表。当時のアンダーグラウンド・ムービーの嵐の中心となる。その頃からコマース界の草創期に関わる。68年から約10年間はテレビCM (その数2,000以上)、PR映画の製作に情熱を燃やし、山口百恵、三浦友和のグリコ、上原謙、高峰三枝子の国鉄、チャールズ・ブロンソンのマダム、ソフィア・ローレンのホンダなどヒットCM多数。PR映画は『手のひらのなかで乾杯/キリンビールのできるまで』など。

1977年に『HOUSE/ハウス』で劇場用商業映画の世界に進出。『転校生』(82年)、『時をかける少女』(83年)、『さびしんぼう』(85年)の尾道3部作は多くのファンに親しまれ、尾道を全国的に有名にすると共に、個人映画と商業映画との接点を見出す。その後『廃市』(83年)、『野ゆき山ゆき海べゆき』(86年)、『異人たちの夏』(88年)、『北京的西瓜』(89年)、『青春デンデケデケデケ』『はるか、ノスタルジィ』(92年)『女ざかり』(94年)などの名作を次々に生み出し映画賞多数受賞。『ふたり』(91年)、『あした』、(95年)に続く新・尾道3部作『あの、夏の日〜とんでろじいちゃん』(99年)が最新劇場映画。又、映画評論家淀川さんの一周年忌(99年11月)に放映された作品『淀川長治物語・サイナラ』は今夏上田市内でロケされている。



20世紀ノスタルジア



カルメン故郷に帰る

主催「うえだ城下町映画祭」実行委員会(上田市・上田市教育委員会・信越放送)・日本映画製作者協会

後援 ■ 上田商工会議所・上田市塩田商工会・上田市川西商工会・上田観光コンベンション協会・上田青年会議所・上田地域広域連合・上田市文化芸術協会・信州地域デジタルアーカイブ研究会・上田市商店会連合会・長野県情報サービス振興協会東信支部・上田地域新映像産業推進協議会・上田市連合婦人会・上田市婦人団体連絡協議会・うえだ女性会議・東日本旅客鉄道(株)上田駅・しなの鉄道・上田交通・信濃毎日新聞社・信州民報・東信ジャーナル社・週刊上田新聞社・上田ケーブルビジョン

協力 ■ セム、コーポレーション

サット ■ 信越放送各放送局・上田市役所受付・上田市教育委員会文化課・市内プレイガイド・上田映劇・でんき館

お問い合わせ/信越放送上田放送局 TEL0268-24-2141

チケット料金/2日券=2,000円 1日券=1,500円 前売券=1,200円 大学生=800円 高校生以下=500円

プログラム

12月4日(土)	12月5日(日)
10:30 青春とはなんだ(上田作品)	10:00 のど自慢
12:20 オープニングセレモニー 大林宣彦監督講演 「映画づくりと街づくり」	12:00 20世紀ノスタルジア
13:35 青春デンデケデケデケ	13:40 大阪物語
15:55 カルメン故郷に帰る	15:50 ポストマン・ブルース
17:30 カンゾー先生	17:50 座頭市と用心棒
19:40 終了予定	19:46 終了予定

■青春とはなんだ

1965年製作：日活／監督：舛田利雄／出演：石原裕次郎、十朱幸代、高城淳一、太田博之ほか

今なお、多くのファンを持つ石原裕次郎が上田でロケーション撮影した作品。米国留学から帰国した青年が、英語教師として田舎の高校に赴任した。優等生と不良グループが入り混じる青春真っ只中の生徒達にラグビーを通して若さを爆発させようとコーチを買って出る。(改築前の北小学校や当時の三中の生徒が映っています。)



■青春デンデケデケデケ

1992年製作：ギャラクプレミアム、P・S・C、リバティフォックス／監督：大林宣彦／出演：林泰文、浅野忠信、尾美としのり、佐野史郎ほか

直木賞に選ばれた芦原すなおの同名小説を、大林監督が彼には珍しく尾道ではなく、原作と同じ香川県観音寺を舞台に映像化した青春映画の佳作。60年代、ベンチャーズ「パイプライン」でロックに目覚めた少年のロックバンド結成から大学受験で上京するまでをノスタルジックに描いている。



■カルメン故郷に帰る

1951年製作：松竹大船／監督：木下恵介／出演：高峰秀子、佐野周二、笠智衆、佐田啓二ほか

昨年12月に逝去した木下恵介監督による日本初の総天然色映画。久しぶりに東京から帰郷した自称「芸術家」の彼女は、実はストリッパー。着ているものからやることなすことすべてのあまりの派手さ・奇抜さに、田舎の人間はびっくり仰天する。

■カンゾー先生

1998年製作：今村プロダクション、東映、東北新社、角川書店／監督：今村昌平／出演：柄本明、麻生久美子、ジャック・ガンブラン、世良公則ほか

2度のカンヌ国際映画祭グランプリに輝く、今村昌平監督の新作。戦争中の瀬戸内海の小島で、物資や医薬品の不足に悩みながら「医は仁術なり」を信条とする医師が奔走・苦悩する姿を描く。



■のど自慢

1998年製作：シネカノン／監督：井筒和幸／出演：室井滋、大友康平、伊藤歩、竹中直人ほか

監督は、「ガキ帝国」「岸和田少年愚連隊」の井筒和幸。テレビの人気番組「のど自慢」がやって来るとあって、街は大騒ぎ。この街出身でドサまわりの演歌歌手や失業者で焼鳥屋修行中の中年男等は、それぞれの人生の転機・生きる希望を求めて「のど自慢」出場にチャレンジする。



■20世紀ノスタルジア

1997年製作：オフィス・シロウズ／監督：原将人／出演：広末涼子、圓島努、根岸吉太郎、余貴美子ほか

人気アイドル、広末涼子の記念すべき映画デビュー作。自らを宇宙人と名乗り「地球観察レポート」なるビデオを撮影する少年に惹かれ、行動をとる少女のひと夏の物語。広末が歌うミュージカル・シーンを初め、8ミリビデオ映像の多用などユニークな青春映画。



■大阪物語

1999年製作：吉本興業、関西テレビ放送、電通、近代映画協会、エス・エム・エム／監督：市川準／出演：池脇千鶴、沢田研二、田中裕子、ミヤコ蝶々ほか

大阪を舞台にした売れない漫才師一家の1年間の物語。父親は浮気がばれ、夫婦は離婚。あげくの果ての失踪。夏休み、娘は父親を探す旅に出るのだが…。夫婦漫才師には、実生活でも夫婦の沢田研二と田中裕子。娘役で、池脇千鶴が好演している。



■ポストマン・ブルース

1997年製作：日活／監督：サブ／出演：堤真一、遠山景織子、大杉漣、堀部圭亮ほか

俳優から監督に転身、「弾丸ランナー」で映画ファンに注目されたサブ監督の第2作である。毎日の生活に嫌気がさしていた郵便配達員は、偶然、高校の同級生だったヤクザと再会したことが原因で、麻薬の売人に疑われ、警察に追われることになる。



■座頭市と用心棒

1970年製作：勝プロダクション、大映京都／監督：岡本喜八／出演：勝新太郎、三船敏郎、若尾文子、嵐寛寿郎ほか

勝新と三船がそれぞれの当たり役で激突する話題の作品。監督は、座頭市シリーズ初演出の岡本喜八である。座頭市は、記憶の彼方にある梅の香りがする村を再び訪れたが、そこはやくざ者がはびこり、正体不明の浪人が飲んだくれていた村と化していた。



ご案内

前日、当日雨天のときは使用不可 合同庁舎 文化会館

